

むかしの高松

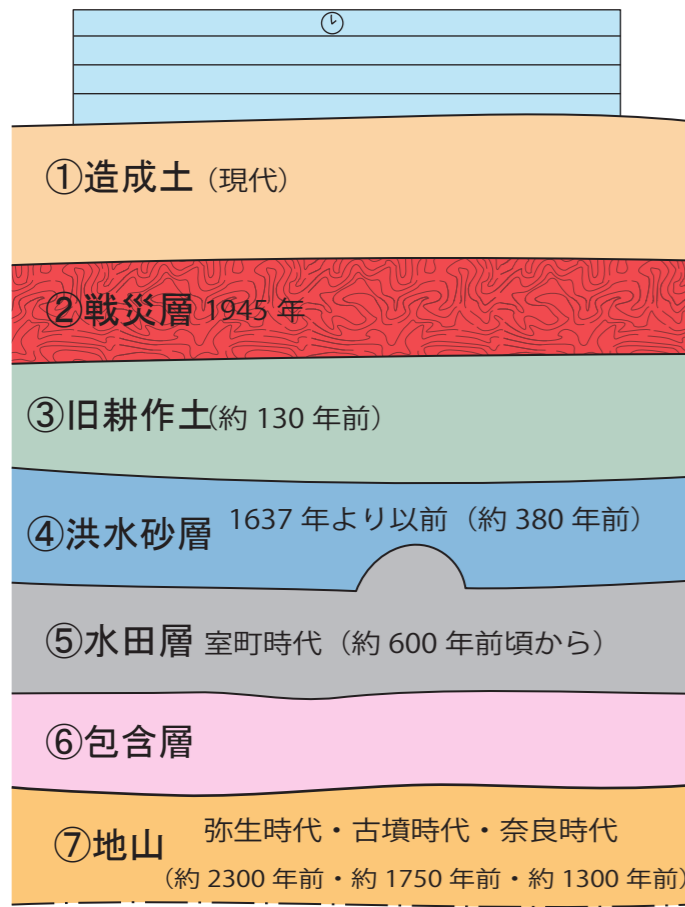
2019年3月
第31号

りっりんたなかいせき 栗林田中遺跡



土地利用の変遷

- ①栗林小学校の旧校舎の建設の際に盛られた土。
- ②戦災層：第2次世界大戦で、当時の校舎は、一部を除き焼失。その瓦礫の整地層。
- ③水田層：明治に栗林小学校が現在の場所にできるまでの水田。
- ④洪水層：香東川の付替え前に頻発していた洪水による堆積層（1637年以前）。
- ⑤水田層：15世紀（室町時代）から洪水によって水田が埋まるまでの水田。
- ⑥包含層：遺構をおおう堆積層。
- ⑦地山：弥生時代・古墳時代・奈良時代の遺構が確認できる層。



おわりに

栗林田中遺跡のある場所は、周辺よりも少し標高が高い、微高地上に位置していたことから、洪水などの心配がなく、昔から人々が暮らしていたと考えられます。

これまでの調査では、当時の人が住んでいた建物跡はまだ見つかりませんが、地形が高い南側で見つかる可能性があります。

新しい時代になり、人が住まなくなると、微高地という特性上、水がかりが悪く、稲作をするには大変な労力がかかったようです。大型水路を掘削し、水を引き入れることで、水田に水を行き渡らせていたと考えられます。

しかし、苦勞して造った、水田や大型水路も、洪水によって埋まってしまいました。しかし、この地に暮らす人々は諦めず、洪水砂の上に新しい水田を造ります。『田中』という地名には、当時の人たちの苦勞の跡が刻まれているのかもしれない。



むかしの高松
栗林田中遺跡

2019年3月
第31号

編集発行
高松市埋蔵文化財センター
高松市番町一丁目5番1号
tel 087-823-2714
<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp//886.html>



学校の下に歴史があった…

こがたぼうせいきょう
小型仿製鏡が出土しました。この鏡は、珠文鏡しゅもんきょうという鏡で、珠文という粒々が特徴です



溝の中からは、たくさんの土器が出土しました。この写真は小型丸底壺こがたまるぞこつぼという土器が完形で出土したときの状況です。



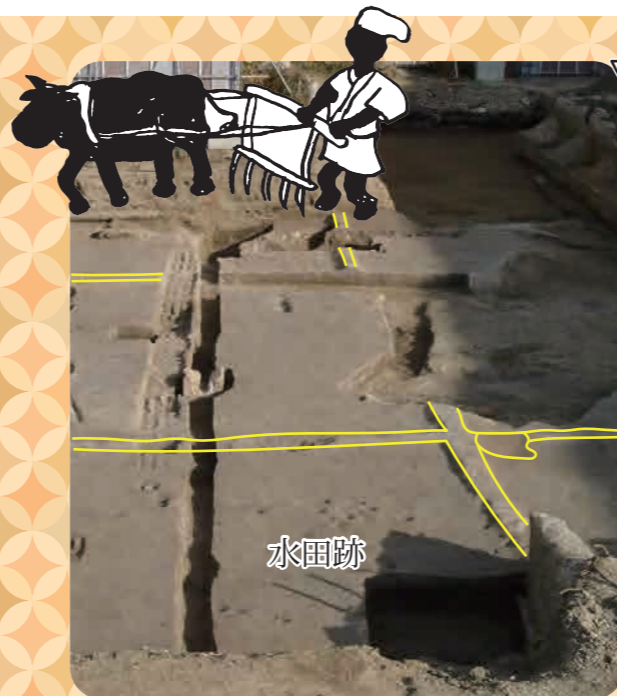
溝の中から出土した土器片を復元すると、大きな壺になりました。



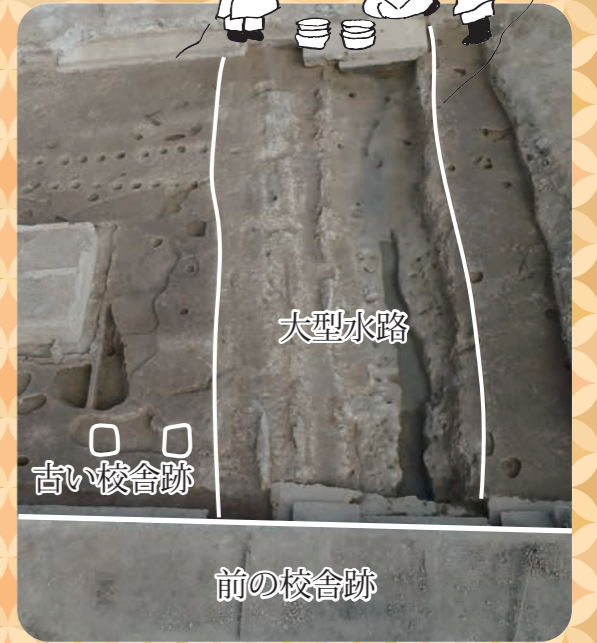
ほぼ原寸大



- 弥生時代前期の遺構
- 古墳時代の遺構
- 中世の遺構
- 弥生時代後期の遺構
- 奈良時代の遺構
- 近世の遺構
- 弥生時代の時期不明の遺構
- 攪乱（現代）
- 時代不明



水田あぜの畦畔（うね）がきれいに交差する場所が出てきました。



大型水路の底で重なった状態の土師器杯さいしが出土しました。祭祀（おまつり）がおこなわれたのでしょうか…。

高松市文化財課では、栗林小学校校舎等建設事業に伴い、平成26年6月から平成30年4月まで発掘調査を実施しました。

栗林田中遺跡は、栗林小学校の校舎建設に伴い、新たに発見された遺跡で、現在の地名である『栗林』と字名である『田中（昔の地名）』をとり、栗林田中遺跡と命名されました。

今回の調査では、中世の水田跡や大型水路のほか、弥生時代前期から近世に至る、遺構や遺物が確認されました。

また小型仿製鏡こがたぼうせいきょうという貴重な遺物が出土いたしました。この鏡は中国産の鏡をまねて日本で造られた鏡です。当時の鏡は有力者しか所有することができなかったと考えられており、この地域に、有力者が居住する集落が存在した可能性があります。